

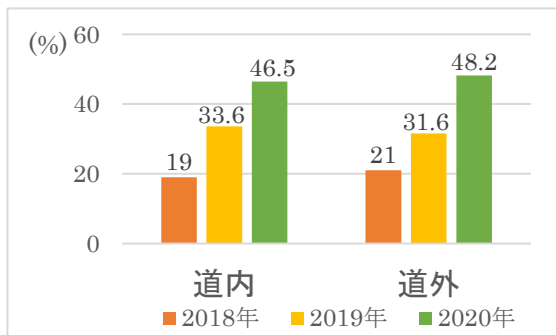
## 道内のSDGsを取り巻く現状と課題

## 現状

## &lt;道民全体&gt;

## ○認知度

認知度（道外との比較）



地域別認知度

年	道央	道南	道北	道東
2018	22.6	19.3	15.6	16.9
2019	35.1	31.3	37.8	30.6
2020	50.0	42.7	43.9	45.9

性年代別認知度(2020年)

	~20代	30代	40代	50代	60代
男性	66.3	58.9	51.5	45.0	55.0
女性	50.0	35.0	39.0	31.1	34.0

出典：新どさんこ研究所「北海道民のSDGs意識」(2021.4)

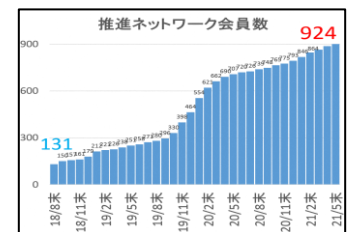
- ・今年4月に公表された民間調査では、道内の認知度は2年前の2.5倍となる46.5%で、2018年と比較し大きく上昇（道外：48.2%）。
- ・エリア別では、道央50.0%、道南42.7%、道北43.9%、道東45.9%。道央を中心に浸透しており、直近では道東の伸びも大きい。
- ・性年代別では男女とも若年層での認知度が最も高く、20代以下男性の認知度は66.3%、20代以下女性で50.0%。

## ●分析結果

- ・全道の認知度はこの2年間で全国と同程度まで上昇しているが、地域間、性年代別で認知度に差がある状況

## ○北海道SDGs推進ビジョン

- ・オール北海道でSDGs推進に取り組むための指針として2018年12月に策定し、毎年度進捗状況を取りまとめ、公表
- ・SDGs推進ネットワークの運営、多様な主体と連携した普及啓発等、ビジョンを踏まえた様々な取組を展開



## ●分析結果

- ・新型コロナによる影響や北海道総合計画の見直しなど、SDGsを取り巻く環境が大きく変化

## &lt;市町村&gt;

## ○SDGsを推進する市町村数

- ・昨年12月に内閣府が公表したSDGsに関する全国アンケート調査では、道内でSDGsを推進する市町村は北海道含め63自治体（市：19、町：40、村：3）。取組割合は35.0%（全国：39.71%）

## ○北海道SDGs推進ネットワーク加入市町村数

年	空知 (24)	石狩 (8)	後志 (20)	胆振 (11)	日高 (7)	渡島 (11)	檜山 (7)	上川 (23)	留萌 (8)	宗谷 (10)	オホ (18)	十勝 (19)	釧路 (8)	根室 (5)	計 (179)
2018	3	6	0	2	0	3	0	6	4	0	3	7	1	5	40
2021	9	6	15	4	2	5	6	10	4	3	4	14	6	5	93

- ・2018年8月のネットワーク設立時と比較し、参加市町村数は2倍以上に増加。
- ・根室管内は全ての市町村が加入。

## ●分析結果

- ・SDGsを推進する市町村の割合は全国平均に及ばないほか、ネットワーク加入状況については地域差がある状況

## <企業>

### ○取組状況

- ・昨年7月に公表された民間調査では、「既に取り組んでいる」「取り組む意思がある」SDGsに積極的な企業の合計は19%（全国：24.4%）。
- ・規模別に見た積極的な企業の割合は、大企業29%（全国：34.9%）、中小企業16%（全国：22.1%）、小規模企業12%（全国：19.0%）。
- ・各企業が感じているSDGsの達成への貢献で向上する企業価値としては、「企業好感度」（44.6%）、「社会的評価」（42.5%）などが上位に。
- ・5月末現在の北海道SDGs推進ネットワーク登録者924件のうち、企業は620社（67%）。

### ○取組の「見える化」に向けた動き

- ・国では2020年10月に自治体向けに「地方創生SDGs登録・認証制度ガイドライン」を公表、地域でSDGsに取り組む企業等の見える化を促す。（他都府県では8県が登録制度を創設済み。10県が今年度内に創設予定）
- ・ネットワーク会員へのアンケート（2020.9）では、回答者の41%が登録認証制度への応募に前向き。（「制度が創設されたら応募したい」「メリットがあれば応募したい」と回答）
- ・道内では、北洋銀行がSDGsに取り組む企業の「宣言」を支援する有償サービス「SDGs宣言サポート」を2021年5月から開始。

### ●分析結果

- ・企業の認知度は全体、規模別共に全国平均に及ばないが、ネットワーク登録者の70%近くを企業が占めるなど、企業の取組はある程度進んでいる状況
- ・実際にSDGsを推進する企業を「見える化」して支援する取組は全国的に広がりつつあり、道内においても制度への一定のニーズを確認

## <各主体>

### ○各主体の取組状況

- ・引き続き普及啓発が必要な状況ではあるが、取組当初（2018年）と比較すると、認知度は2.5倍、ネットワーク会員数は7倍と、道内でSDGsに取り組む主体の状況は変化。

### ●分析結果

- ・これまでの「認知・理解」を支援する取組に加え、「行動」へのステップアップの支援、「行動」する主体への支援などが必要

## （まとめ）分析結果と課題

- 道民全体の認知度は大きく上昇しているが、地域間、世代間の差が存在  
→道民の一層の認知度向上（特に地方における認知度向上）
- 近年SDGsを取り巻く環境が大きく変化  
→SDGs推進ビジョンのあり方等の検討
- 推進する市町村が少なく、関心はあるが取り組んでいない市町村も存在  
→市町村の取組支援（各地域における市町村の支援）
- 全国に比較して低い企業の取組割合と、取組の「見える化」への全国的な動き  
→企業の取組主体の増加、SDGsを推進する企業等を支援するための、取組主体の見える化
- 認知度やネットワーク会員数の大幅な増加など、SDGsに取り組む主体の状況変化  
→道内の推進状況を踏まえた、各主体の役割の整理